

平成31年度学校自己評価システムシート (県立久喜特別支援学校)

目指す学校像	児童生徒の社会的自立の力を育む学校
--------	-------------------

重点目標	1 教育支援プランに基づき児童生徒が達成感を得られる授業づくりを進める。 2 共生社会の実現に向け、教職員の専門性を生かした組織的な地域支援や交流及び共同学習を進める。 3 児童生徒が安全で安心な学校生活を送れる環境づくりを進める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 8名 生徒 2名 事務局(教職員) 6名
-----	----------------------------------

学 校 自 己 評 価						学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (2月1日 現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	教育支援プランに基づく指導支援が行われているが、児童生徒一人一人のニーズに即した教育支援プランとなるよう、保護者と意見交換を十分に行うとともに、評価の在り方について検討を進める必要がある。新学習指導要領の実施については、各学部において教育課程や指導内容を検討していく必要がある。また、引き続き児童生徒の意欲や理解を促すため、ICTを効果的に利用するための研修を行っていく。 新学習指導要領の理解をさらに深め、教育課程を編成する必要がある。また、教育支援プランに基づく指導支援が進みつつあるが、より一層の充実を図るため、教職員の専門性の向上を図り、児童生徒の障害特性に配慮した指導を進める必要がある。	児童生徒が達成感を持てる授業づくりを行う。	【達成感を持てる授業づくり】 ①教育支援プラン作成について説明会を年度当初に実施する。 ②支援プランに係る保護者面談を通して、意見交換を十分に行う。 ③外部講師を招いての全体研修会を実施する。 ④視覚的支援やICT等を積極的に活用する。 ⑤新学習指導要領理解のための説明会を実施する。	【達成感を持てる授業づくり】 ①学校自己評価に関する保護者アンケートにおいて、「出来ている」の評価を昨年度評価から上げることができたか。 ②児童生徒ニーズに即した効果的で適切な指導支援を行えたか。 ③研修会を効果的に実施できたか。 ④視覚的支援やICT等を活用できたか。 ⑤新学習指導要領の説明会を複数回実施できたか。	【達成感を持てる授業づくり】 ①保護者アンケートの結果、達成感の持てる授業づくりが「出来ている」の評価は昨年度と比較して横ばいもしくは低下している。 ②教育支援プランに係る保護者面談により95%の保護者と十分意見交換が行われていると回答している。 ③外部講師等を招いての全体研修会は実施できた。 ④学部・委員会を中心に視覚的支援やICT活用を授業等において推進した。 ⑤新学習指導要領説明会を実施、教育課程編成準備を学年等で検討を行った。	A	【達成感を持てる授業づくり】 ・教育支援プラン作成について説明会を実施し、共通理解を持ち、相互確認を行っていく。 ・支援プランに係る保護者面談を実施した。引き続き保護者との意見交換を継続していく。 ・視覚的支援やICT等を積極的に活用し、教育効果を上げていく。 ・新学習指導要領による教育課程編成・開かれた教育課程の実践を検討し、さらに進めていく。
2	昨年度見直した支援籍学習ガイドラインに基づき支援籍学習を実施する。効果的な支援籍学習となるよう支援籍校と連携を密にし実施する中でガイドラインの検証を行う必要がある。また、本校で開催するボランティア養成講座やコーディネーター研修会等の様子や教材教具の紹介、教育情報などを地域保護者に情報発信する必要がある。	交流及び共同学習を充実させるとともに、積極的な情報を発信を行う。	【交流及び共同学習の充実】 ①相手校と連携し学習内容の工夫を行う。 ②支援籍学習の実施後、業前活動での活動状況や保護者、相手校の意見を集約し、ガイドラインの検証を行う。 【積極的な情報発信】 ①ホームページや学校だより等を活用して情報を発信する。 ・ボランティア養成講座 ・コーディネーター研修会 ・自立活動教材 等	【交流及び共同学習の充実】 ①効果的な支援籍学習を実施できたか。 ②実施後の意見を集約しガイドラインの検証を行い、必要に応じて修正が行えたか。 【積極的な情報発信】 ①適時に適切な方法で情報を発信できたか。	【交流及び共同学習の充実】 ①支援籍学習については83%の保護者が評価している。 ②現在、支援籍学習の意見を集約し、ガイドラインの検証を行っている。 【積極的な情報発信】 ①ホームページ等を活用し、情報発信を行った。	B	【交流及び共同学習の充実】 ・小・中・高等部とも相手校と密接に連携し、教育目標を確認しながら学習内容に工夫を加え、実施する。 ・支援籍学習について保護者に周知し、実施に向けて当該校との連携を密にし、実施する。 【積極的な情報発信】 ・交流及び共同学習、地域支援の情報をさらに発信していく。
3	昨年度実施した引き渡し訓練の反省により隔年実施から毎年実施することとした。しかし全ての保護者が参加できる工夫や様々な災害に対応した引き渡し訓練を検討する必要がある。 また、昨年度検討を進められなかった校内遊具の将来構想について検討を進める必要がある。 ヒヤリハットについては、校内ホームページによる収集を行い、事故の未然防止を図る必要がある。	災害時対応への備えを進めるとともに、日々の児童生徒の怪我や事故を防止する。	【災害時対応】 ①保護者がより参加し易い実施方法を検討する。 ②災害が発生した際に、保護者がどのように行動するかを簡潔に示し、リーフレットを配布し周知する。 【遊具の安全利用に向けて】 ①企画委員会が中心となり、遊具の配置や新規購入に向けて、各学部、体育科、事務室の意見を集約し、構想を策定する。 【ヒヤリハットの収集と共有】 ①校内ホームページを活用しヒヤリハットを収集する。 ②学期末に収集内容を共有する。	【災害時対応】 ①引き渡し訓練への保護者参加数が増えたか。 ②課題を明らかにし、対応策を講じるとともに、災害時の行動指針を保護者に周知できたか。 【遊具の安全利用に向けて】 ①遊具設置等の将来構想を策定することができたか。 【ヒヤリハットの収集と共有】 ①収集したヒヤリハットを事故の未然防止に役立てることができたか。 ②ヒヤリハット情報を校内で共有できたか。	【災害時対応】 ①引き渡し訓練への保護者参加が26件増加した。 ②今年度発生した災害への対応について周辺地方自治体連携し、行動指針を取りまとめ、その結果を保護者に周知する。 【遊具の安全利用に向けて】 ①遊具設置等の将来構想を企画委員会を中心に策定を進めている。 【ヒヤリハットの収集と共有】 ①収集したヒヤリハットにより体制を確立し、事故の未然防止にあたっている。 ②校内で起こったヒヤリハットを朝会等で共有し、具体的な対応策をその都度明らかにして対応している。	A	【災害時対応】 ・今年度の課題を明確にし、次年度の災害時対応を地方自治体との連携を密にして進めていく。特に避難所については検討を積極的に進める。 【遊具の安全利用に向けて】 ・校内遊具の将来構想についてはその課題を全校で共有し、それぞれの遊具の今後の取り扱いの方針を示す。 【ヒヤリハットの収集と共有】 ・朝会等で校内事故について微細な件についても情報共有を行い、注意喚起を継続する。

学校関係者からの意見・要望・評価等

- ・教育支援プランに力を入れていることが一貫している。
- ・細かい部分まで指導をしている。
- ・教育支援プランを活用し、日々児童生徒のを見てほしい。
- ・児童生徒のニーズを学校・保護者と一緒に正確に把握してほしい。
- ・自立活動がどのような形で展開されているのか示してほしい。
- ・毎学期、教育支援プランを見せていただいている。保護者が気づかない事も見てもらっている。
- ・先生方が一生懸命やってくれている。
- ・支援籍は実施しているだけでも素晴らしいと思っている。
- ・保護者等の意見も聞きながら引き続きより良い支援籍となるようにしてほしい。
- ・学校で災害時対応をする際に、職員などの配置はどのように想定されているのか。充実させてほしい。
- ・水害は今までの想定と変わっている。久喜市は避難者が県内で最も多かった。避難所に入れない人もいた。
- ・福祉避難所の事も含め、周知が必要。障害のある方々が暮らしていくための地域の情報提供が必要であり、それが防災につながっていく。
- ・教員、保護者の災害の意識が高まっている。情報発信は学校や関係機関からしてもらえるとよい。
- ・学校には自治体との話し合いの様子を発信してほしい。